

タウンミーティング議事録

1 日 時

令和2年7月11日（土）午前10時から11時30分まで

2 場 所

上下水道局 会議室

3 参加者

（1）特別職等

井崎市長、石原副市長、田中教育長、志村上下水道事業管理者

（2）部 局 長

須郷総合政策部長、伊藤市民生活部長、早川健康福祉部長、
秋元子ども家庭部長、石野まちづくり推進部長、石井土木部長、
菊池教育総務部長、前川学校教育部長

（3）事 務 局（秘書広報課）

若林課長、影山課長補佐、小山内主事、須賀主事、
金子会計年度任用職員、三好係長（記

4 来場者数

43名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

運動公園周辺地区一体型特定土地区画整理事業について、芝崎市野谷線のうち、おおたかの森小・中学校と中駒木線の交差点の間の道路が完成し共用されていますが、この間の植栽はいつ工事をはじめますか？

全体的な道路の完成は令和8年度以降と聞いていますが、すでに一部完成していますので、どのように考えているのか教えてください。

A 市（まちづくり推進部長）

運動公園地区の土地区画整理事業は、県の施行となっています。

おおたかの森小中学校から中駒木線までの間については、比較的大きな植栽帯があり、県から「協議が整いしだい、植栽していきたい」との報告を受けています。残りの区間について、中駒木線から県道までの間はまもなく解放していく予定ですが、それから先の南側については事業の後半頃になるとの報告を受けています。

Q 市民

現在、九州で大雨が降っていますが、江戸川が氾濫水位に達しそうとのことで避難所が開設されましたが、防災無線では、避難の対象区域を下花輪より南側としていました。

また、避難所の収容人数を確認したら、河川課と防災危機管理課をたらい回しになり「把握していない」と言われました。水防本部の情報伝達は正確にお願いしたいと思います。

また、南房総市では行方不明者の確認に手間取ったとの報道がありました。市長は緊急事態の際、どのような判断を行いますか？

A 市（市民生活部長）

現在、九州地方を中心に梅雨前線による大雨が降っており、流山においてもはっきりしない天候です。

台風は気象状況により予測が可能な災害であり、台風19号の際も、当初は1週間ほど前から浸水想定区域を中心に避難所の開設準備をすすめており、自主避難できる環境を整えました。土砂災害区域に指定されている地域の注意報、警報等に基づき、国の推奨しているレベル2・レベル3等の基準に照らし合わせて対応しました。市内全域の避難というよりは浸水想定区域が中

心でした。

防災行政無線は地域や天候などによって聞こえづらい場合があります、情報が行き渡らないことが課題です。このため、現在は情報の多重化を進めており、安心メールや市ホームページのほか、「Yahoo!防災」といったアプリを併用して伝達しています。

台風19号や15号の際は房総半島において大きな被害がありましたが、流山市も反省すべき点として、市と避難所との情報伝達があります。当時は市への電話が集中しましたので、今後は対応する職員数を増やすなど改善を進めています。

防災については、現在の気象情報を注視しながら、今後も早めの情報提供を行います。

A 市（市長）

台風15号は暴風、台風19号は豪雨、そして今回の九州でも甚大な被害が報道されていますが、風や雨が強まると、当然、防災無線は聞こえづらくなります。市民の皆さまには「安心メール」に是非登録いただきたいと思えます。かなり小まめに情報が入ります。また、「Yahoo!防災」は、携帯電話やスマートフォンが対象の機種であれば利用でき、現在自分のいる地点の情報が自動的に入ってきます。

新型コロナウイルス感染症対策の観点では、避難所において避難者同士の距離を十分に確保するほか、現在は災害用テント600張の導入準備を進めており、避難所の屋内に設置することで感染予防を行います。

Q 市民

利根川のときには雨も風も無く、江戸川の水位が上がるのは1、2日経過してからなので、その点も踏まえた上で、きちんと防災無線を発信してください。また、水防本部では電話が繋がらなかったうえ、「避難所の収容人数は把握していない」との話でしたので改善してください。

Q 市民

流山市では今年に入って大きな火災が増えています。消火器の重要性を否定するつもりはありませんが、自治会においては消火栓を使った初期消火を行いたいと考えています。

しかし、消防防災課によると「大規模火災のときや、消防車が別の現場に出て間に合わないときはOKですが、それ以外はダメです」とのことであり認められません。しかも、消火栓を使用する際は文書による手続きが必要とのことであり非常に困ります。

阪神大震災のときは、停電が起こり、断水が起こりました。そのような中では正常な消火活動ができるわけがありません。一番危険な状態です。自治会だけで消火活動を行うという前提で考えなければなりません。

千葉県によれば「消火栓の使用は大規模火災に限る」といった指針は出してないそうです。横浜市も認めているようです。現在、住民と行政が初期消火をきちんと行っていこうという流れの中で、どうして流山市だけが反対するのでしょうか。消防署からは、自治会内に新たに消火栓を作ることもダメだと言われました。設置基準を満たしていることが理由とのことですが、家屋と消火栓との距離は最大280mあり離れすぎています。

市長、副市長、現場と話し合っって良い方向性を見出してほしいです。

A 市（市長）

本日は消防長が不在ですので、きちんと確認した上でご連絡したいと思います。

Q 市民

おおたかの森周辺には広い道路がありますが、歩行者、自転車、自動車の交通量が非常に多く、ランナーには危険が伴います。また、江戸川台駅から運河にかけては歩道がきちんと整備されておらず、歩行者と自転車が交差することもあり、整備が必要だと考えています。

市において何か計画等がありますか？

A 市（土木部長）

現在、江戸川台周辺においては新規に歩道整備を行う予定は無いものの、交通安全協会や流山警察では歩行者・自転車を含めた安全通行の啓発活動を積極的に行っているところであり、今後も対応していきたいと考えます。

おおたかの森周辺においては自転車に特化したネットワーク計画があり、歩道を走ってよい場所と走ってはいけない場所の住み分けを行うことで、安全対策に繋げていきたいと考えています。

A 市（まちづくり推進部長）

総合運動公園では、園路の幅が細かったり根上がりにより「歩きづらい」「走りづらい」というご意見をいただいていますので、ランニング専用ではありませんが、歩行者と併用した園路を設置して距離表示を行うなどの対応を予定しています。

Q 市民

総合運動公園の園路はウッドチップなど足に優しい素材ですか？

A 市（まちづくり推進部長）

ランニング専用の道であれば足に優しい素材も考えられますが、総合運動公園の園路は管理用の車両が走るため強度が必要であり、足に優しい素材は難しいと考えています。

Q 市民

デジタル化について、流山市が既に実施していること、導入が決まっていること、変更していくことなど教えてください。

自治会では、紙の回覧板の見直しを考えています。回覧すること自体も自治会員の負担になっていますが、現在のコロナの状況下では回覧板を手渡しすることにもリスクがあります。流山市ではどのような対策を考えているのか教えてください。

A 市（市民生活部長）

「回覧板を手渡しすると感染のリスクが高まる」というご意見については他の自治会様からもお話を伺っており、市では、アプリケーションを利用して電子データによる情報の受け渡しを行うための研究を始めたところです。現在、複数の事業者より情報収集を行っており、将来的にはデジタル方式でコミュニケーションを行えるようなツールを研究しています。

A 市（副市長）

流山市では広報の充実に力を入れています。多くの自治体では月2回広報紙を発行するところ、流山市では月3回発行しており、できる限り回覧に抛らない情報の伝達に努めています。また、先ほど市長からも話がありました

が、緊急性の高い情報は安心メール等により伝達します。そうすると、回覧板により回覧されるのはごく限られた情報になりますので、それらは他の方法で伝達できると思います。

現在の情勢ではご近所同士顔を合わせるのも難しいと思いますので、将来的には新しい時代に適した情報伝達を検討したいと考えます。

Q 市民

確かに、回覧板をどうするかではなく、必要な情報をどのように伝えるかという観点だと考えます。是非進めていただきたいと思います。

もうひとつ聞きたいことがあります。以前、市役所に問い合わせた際に、連絡手段が電話とFAXしか無く、職員にメールアドレスを聞いたところ、「携帯を持っていない」と言われました。もう少しインフラを整える必要があると思います。

A 市（市長）

今時、携帯電話やスマートフォンを持っていない職員というのは考えられないので、恐らく個人の携帯を利用してやりとりしてトラブルが生じた場合に、自分の機器に記録が残ることを懸念したのだと思います。

必要なツールと主要な活用方法については至急検討を行い実現したいと思います。

Q 市民

流山市役所は「流山市民の役に立つ所」と理解しています。市民がどうしたいのかということについて、背景をきちんと理解して市民目線で前向きに検討いただきたいと思います。

さて、6月に防災の備蓄からクラッカーとアルファ米を提供いただきありがとうございました。コロナの影響により皆が集まるのが難しい状況の中、消費期限が8月・9月でしたので、せめて半年程度の余裕をもって供給いただくよう次回以降検討いただければと思います。

また、つくばエクスプレスの混雑が例年ひどくなっています。混雑解消に向けて、どのように動いていますか？

A 市（市長）

つくばエクスプレス沿線の自治体のうち、流山市は特に強く要望を上げています。8両編成、東京駅延伸については、茨城県・千葉県・埼玉県の各自治体と、東京都の足立区・荒川区において、毎年のように要望を繰り返しているほか、国会議員の議員連盟も要望を行っています。

つくばエクスプレスにおいては、今年4月から1時間25本に増便しています。また、一昨年には8両化の発表が為されましたが、現在は新型コロナウイルス感染症の影響により対応が遅れており、実現は2030年以降となるとのことです。一方、各自治体の人口推計によれば2020年代後半に人口のピークを迎える見込みですので、つくばエクスプレス側に混雑対策を強く要請しています。

つくばエクスプレス側はリモートワークが普及して乗客が少なくなることを懸念していますが、沿線の人口が増加していることは事実ですので私は8両化を実現すべきと思います。

A 市（市民生活部長）

防災の備蓄は、災害時の緊急対応のために行っています。ただ、食料品のうち賞味期限の到来間近のものは、環境保護等の観点から単に廃棄するのでは無く、自治会様の防災訓練等にお役立ていただければと考え提供しているものです。

ご要望については極力検討しますが、備蓄を購入する時期、廃棄する時期については計画しながら進めており、一度に廃棄すると備蓄が不足する場合がありますので、皆さまにご意見をいただきながら調整したいと考えています。

Q 市民

※マイクが遠く判別不可でした。

A 市（市民生活部長）

昨年度末時点において食料の備蓄率は100%を超えています。

計画に沿って備蓄を進めているところですが、自治会様からのご意見を受けて可能な範囲で協力していきたいと考えます。

Q 市民

私たちの自治会は範囲が広く、おおぐろ小学校の影響で4つの小学校を抱えており、4つの学校だよりが届きます。コミュニティ課からの回覧物も多いのでIT化を進めてください。

また、「おおぐろの森小学校」という名称には何票くらい入ったのですか。

また、通学路の変更がありますが、防犯カメラが付いていません。八木北小学校は通学路が狭く、登下校の時間帯は非常に危険です。小山小学校の通学路には広い歩道がありますが、植木のところの草が繁茂しており、雨が降ると歩道の半分くらいしか通れません。至急、草刈りをお願いします。

また、4つの小学校があると、どちらの地区社協に参加するのかという問題があります。民生委員も、常盤松中学校区からおおたかの森中学校区に変更になりました。市の考えを教えてください。

A 市（学校教育部長）

大変ご迷惑をおかけしており申し訳ございません。

学校だよりについては、学校では現在IT化を進めており、国も「ギガスクール構想」を掲げて動いています。その中で、学校だよりや学校からのお手紙もデジタル化して配信する仕組みを考え、取り組んでいるところです。

次に、「おおぐろの森小学校」という名称に何票入ったのか、ということです。本日、正確な数値は持ち合わせていないのですが、おおぐろの地域性を大切にしようということで、子どもたちや地域の方々からたくさんの票をいただいています。

次に、防犯カメラについては、学校の防犯カメラは増やしています。地域の防犯カメラについては関係部局において相談しながら進めたいと思います。通学路の安全性については、毎年、警察や関係部局において通学路の安全点検を行っています。また、各学校においても随時点検は行っていますが、子どもの安全が第一ですので、お気付きの点がありましたらご一報いただければ早急に対応させていただきたいと思います。

次に、民生委員と地区社協についてもご迷惑をおかけしています。現在、おおたかの森では2校を建設しなければならない状況であり、通学区域を考えながら、さらに地域コミュニティがうまくいくように考えていかなければならないと思います。

Q 市民

流山市のコロナウイルス感染者数について市長から説明がありましたが、今後はどうなるかわかりません。市民として心配しています。特に、柏市や松戸市と比べると、PCRの検査体制や感染者の受け入れ態勢がどのようになっているのかとても心配です。

国の第二次補正予算で臨時交付金が2兆円ほど付いたと思いますが、流山市にはどの程度交付されますか？

また、国の予算、県の予算、あるいは流山市の独自の予算等を通じて、保健所に拠らずに気軽にPCR検査を受診できる、PCRセンターのような体制を整備してほしいです。医師会には相談されていると思いますが、早急に作らないといけないと思います。

また、まずは感染者の受け入れ態勢が整わないと先が続きません。流山はホテルもあまり無いですし、今後どのようにするのか教えてください。

また、人口が20万人に達しようとする中で、保健所が無いのはバランスがおかしいと思います。どのような計画ですか。

A 市（健康福祉部長）

現在、流山市医師会とPCRセンターの設立に向けて動いています。本市では50日ほど感染者が発生しませんでしたでしたが、その後6人増加しました。これから季節が寒くなってくるとインフルエンザが流行りますので、しっかり検査をして、新型コロナウイルスなのか・そうではないのかを把握してどのように治療を振り分けていくかということが有効だと考えています。

今後は、医師会と共に保健所からも助言をいただきながら動いているところですので、そこが明確になりましたら今後私からもご説明等させていただきたいと思っています。

感染者の受け入れ態勢については、患者の重症度によって受け入れ先が変わります。重症者の場合、感染症指定医療機関が県内に55床あり、受け入れが行われます。近隣では松戸市立病院ですが、難しければ成田や船橋等の指定医療機関に入れるよう調整が行われます。中程度の医療が必要な場合は、受け入れ可能な医療機関が県内に450床あると聞いています。医療機関名は公開されていませんので申し上げられませんが、市民の方が発症された場合は、その症状に応じて保健所が受け入れ先を調整し、入院して治療を受けることができる状態にはなっています。

軽症者・無症状の方の場合は、県内のホテル4か所・736部屋が手配されており、受け入れが行われます。

千葉県では受け入れ先がまだ足りないと認識しており、現在も県内の医師会・医療機関を通じて受け入れ態勢の拡大が進められています。流山市はホテルが1か所のみですので、感染状況の拡大に応じて、保健所頼みではなく共に動いていく覚悟です。

国・県・市、それぞれに立場と役割があります。医療機関では、ガーゼやマスクが不足していることに一番困っていました。流山市では、保健センターに新型インフルエンザ用の備蓄がありましたので、市内の医療機関や介護施設に配付して使っていただきました。

保健所や市立病院の計画については、現在そこまで検討する余裕が無いというのが正直なところです。今後、状況が続いていく中で、市としての保健体制あるいは医療体制を考えていきたいと思えます。

A 市(市長)

感染者の受け入れ先の確保については、今年の春、市内のホテルに県から問い合わせがありましたが、他に大きなホテルを確保できたということで話が無くなりました。この秋にはホテルは市内2か所になりますので、入院が必要な方と病室数の関係で、県が足りないと判断すれば、今後も問い合わせがある可能性はあります。

市立病院は全国で大赤字であり、大きな財政負担となっています。人口減少地域において民間の医療機関が成立しない場合においては、税金を投入して運営することも市民の理解を得られると思えますが、流山市においては民間の病院が5つありますし、柏市ですがおたかの森病院もあります。

さらに、流山市の人口推計では、今後20万人は超えますが21万人程度で頭打ちになる見込みです。このため、65万人の船橋市・43万人の柏市のように市の施設として保健所を作る計画はありません。

ただ、松戸保健所のPCR検査が滞るような状況も考えられますので、医師会と共に流山市の検査センターについて進めていきたいと考えています。

A 市(総合政策部長)

国の2次補正関係についてお答えします。

新型コロナウイルス感染症対応の地方創生臨時交付金については、流山市

は9億4,686万円の内示をいただいています。これは限度額ですので、現在、庁内に照会をかけて調整を進めているところです。

Q 市民

市議会がどのような動きをしているのかという情報公開がほとんどありません。Youtube等の映像で出してほしいです。

A 市（市長）

二元代表制であり、市議会は執行部を監視する役割ですので、市議会がどう考えているのかということは申し上げられませんが、議会や委員会の様子はインターネットにて配信されています。

なお、流山市は全国市民オンブズマン連絡会議による「全国情報公開度ランキング」において、全国1位の評価をいただいています。